

月刊しばうら

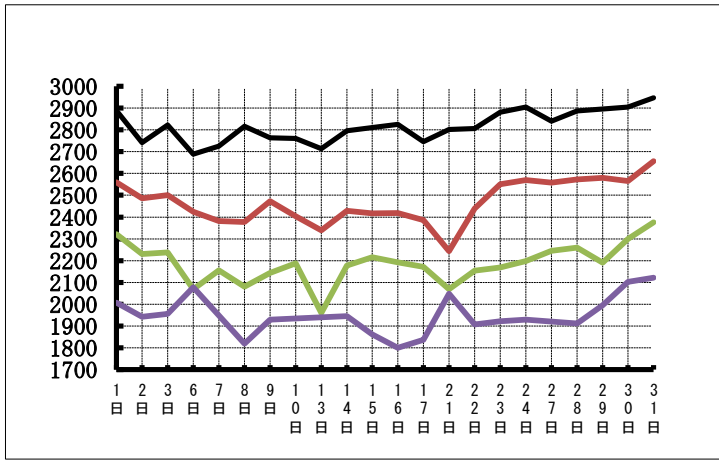
2017年4月号

大動物事業部

<3月の相場動向>

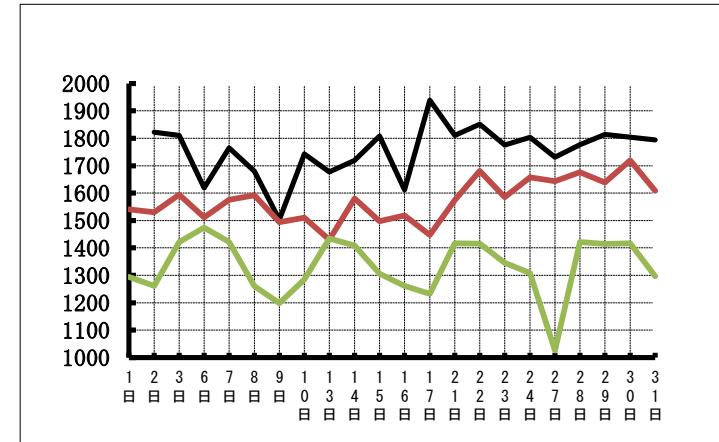
和牛去勢 A5 が前月比 18 円安の 2,813 円、同 A4 が変わらずの 2,470 円、同 A3 が 37 円安の 2,189 円、同 A2 が 24 円安の 1,948 円で、交雑去勢の B4 が 19 円高の 1,754 円、同 B3 が 27 円高の 1,579 円、同 B2 が 20 円高の 1,356 円となった。前月に引き続き末端需要の回復は見られず和牛・交雑とも弱気配の枝肉相場となった。

和牛去勢 日別相場表 (3月)



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,813 円	(99.0%)	(99.4%)
A4 2,470 円	(94.3%)	(100.0%)
A3 2,189 円	(88.7%)	(98.3%)
A2 1,948 円	(84.8%)	(98.8%)

交雑去勢 日別相場表 (3月)



交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,754 円	(97.2%)	(101.2%)
B3 1,579 円	(96.0%)	(102.4%)
B2 1,356 円	(94.3%)	(101.5%)

乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし	—	—
B2 935 円	(96.1%)	(95.1%)

<4月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した貿易統計による2月の牛肉輸入通関実績は、前年同月比 23.5%増の 4 万 604 t と 4 万 t を超え、前月比では 5,887t 増となっている。チルドは前月比では 500t ほど少ないものの、米国产の伸長により前年同月比では 16.7%増の 1 万 6,923t、フローズンも米国产バラの輸入量増が牽引して、28.8%増の 2 万 3,680t と 3 割近い増加となっている。

農畜産業振興機構によると、4月の牛肉輸入数量は前年比 11.8%減の 4 万 6,000t で、チルドは 4%減の 2 万 t、フローズンは 16.8%減の 2 万 6,000t と予測している。

輸入牛肉通関量	2月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	7,110	8,459	84.1%
	米国	9,072	5,319	170.6%
	その他	741	721	102.8%
	合計	16,923	14,499	116.7%
フローズン	豪州	10,424	10,882	95.8%
	米国	10,243	5,886	174.0%
	その他	3,013	1,617	186.3%
	合計	23,680	18,385	128.8%

単位：t 出典：食肉速報

<4月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの個体識別情報によると、17年2月末の牛飼養頭数は前年比 0.1%減の 382 万 7,190 頭で、前月比 9,077 頭増となった。交雑種は引き続き増産傾向で前年比 3.2%増となり、和牛は 2 カ月連続の回復傾向で前年比 1.2%増、前月比 9,487 頭増と全体の増加を上回っており、和牛の増加傾向が顕著にあらわれている。

農畜産業振興機構によると、4月の出荷予測頭数は、前年同月比 1.7%増の 9 万 1,800 頭と予測している。品種別にみると和牛は 0.6%増の 3 万 9,100 頭、交雑種は 8.3%増の 2 万 1,500 頭、乳用種は 1.2%減の 2 万 9,800 頭としている。

東京食肉市場の4月のと畜頭数は 7,250 頭を予定しています。

<4月の牛枝肉相場見通し>

気温上昇とともに需要品目も焼き材メニュー中心へと移行が進む中、行楽需要及び大型連休に向けた手当てや、引き続き出荷頭数が少ないことなどから下げ要因は少なく、末端需要低迷からの回復が期待される。和牛、交雑牛とも 3,4 等級中心に強含みの相場が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800~2,900	B4	1,700~1,800
A4	2,500~2,600	B3	1,600~1,700
A3	2,300~2,400	B2	1,400~1,500
A2	2,000~2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	950~1,050		

小動物事業部

食肉流通統計によると、2月の全国と畜頭数は 130 万 6,588 頭 (前年同月比 96.0%) となり前年より減少した。また、2月分の豚肉通関実績は、総量で 6 万 8,585t (前年同月比 107.8%) と前年より上回った。うちチルドが 2 万 9,662 t (同 109.9%) で内訳は、米国が 1 万 6,624 t (同 106.7%)、カナダは 1 万 2,188 t (同 117.5%)、メキシコが 847t (同 81.5%) となった。フローズンは 3 万 8,923 t (同 106.3%) と前年を上回り、デンマークが 8,172 t (同 87.0%)、メキシコが 5,896 t (同 132.3%) 米国が

4,279 t (同 118.0%)、カナダが 3,022 t (同 119.9%) となった。

<3月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	60,400	552	540	621
2日	63,800	539	527	787
3日	61,100	564	546	646
6日	64,100	564	544	628
7日	65,800	545	521	974
8日	61,800	533	505	553
9日	66,400	524	508	735
10日	65,900	498	480	1,130

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 3,600 頭と前年を下回る頭数であった。当市場においても平均 760 頭と前年を下回る上場頭数であった。

3月前半の東京は好天続きで気温も上昇してきたことも影響し、鍋物需要のバラの荷動きが鈍く、その他パーツの荷動きも決して好調とはいえなかった。全国と頭数が徐々に増加する中、一方で輸入物の現地価格が高騰してきたため量販店等は国産物にシフトせざるを得ない状況となった。当市場の上物平均価格は 539 円。中物平均価格は 521 円と堅調な相場展開となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	63,400	499	469	705
14日	65,400	491	453	922
15日	60,300	476	451	764
16日	65,100	485	461	921
17日	66,200	475	449	1,052
21日	74,400	504	478	839
22日	70,300	475	445	851

中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 6,400 頭と前年を下回ったが、当市場は 1 日平均 865 頭と前年を上回った。

全体的な荷動きは引き続き弱く国産・輸入ともに荷余り感が増してきた。唯一、輸入ベリーの現地価格が高騰していたため国産バラへのシフトが継続されたが、連休がらみによる全国と畜頭数増加が影響し、弱含みの展開が続く状況となった。

当市場の相場も平均で 500 円台を割り込み、上・中の価格差が広がる形となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	69,900	464	454	851
24日	69,600	468	455	941
27日	64,500	470	451	762
28日	64,000	464	453	780
29日	61,700	462	450	665
30日	63,100	476	461	733
31日	62,900	492	472	834

下旬の全国と畜頭数は、平均 6 万 5,100 頭と前年を下回り、当市場の上場頭数も平均 795 頭と前年を下回った。

学校給食の停止や年度末による買い控え、東京の桜開花宣言が 4 月に持ち越す等の状況が重なり、消費需要は盛り上がり、気温の上昇と共に鍋物需要のバラの価格も下がってきたが、年度明け需要を見込んでのヒレ・スペアリブには堅調な荷動きが見られた。

当市場の相場は上物で 400 円台半ばを推移する中、上・中の価格差は縮まる展開となった。

<4月の豚枝肉相場見通し>

農水省による4月の全国と畜頭数は、133 万 7,000 頭 (前年同月比 98.0%) と予測しており、一日当たりの頭数は約 6 万 6,850 頭である。当市場の4月の集荷予定頭数は 1 万 7,000

頭となっており、一日あたりでは約 850 頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による 4 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 3,800 t (前年同月比 97.0%) の予測となっている。内訳はチルドが 3 万 500t (同 98.6%)、フローズンは 4 万 3,300 t (同 95.9%) の予測である。

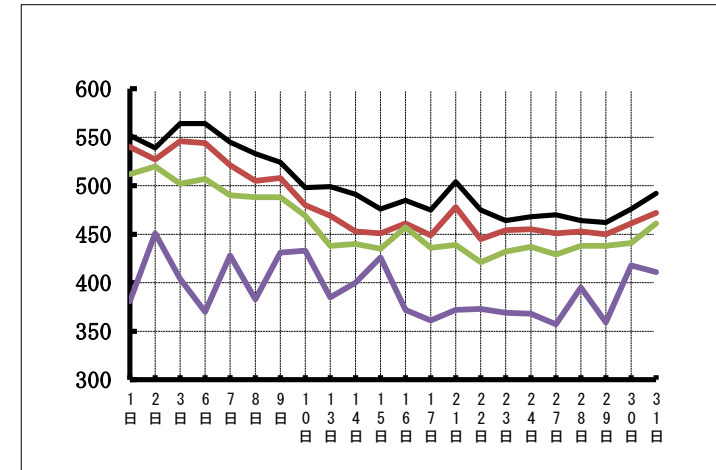
また 1 月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1 万 7,285 t (前年同月比 102.6%)、輸入品は 15 万 8,359 t (同 104.7%) となり合計 17 万 5,644 t (同 104.5%) となった。推定出回り量は 13 万 9,572 t (前年比 104.1%) と前年を上回った。うち国産品は 7 万 6,772 t (同 103.5%)、輸入品は 6 万 2,799 t (同 104.7%) であった。国内生産量は 7 万 7,272 t (同 103.2%) と前年を上回った。

新年度を迎え桜が開花し、送迎行事も花びらに包まれながらのスタートとなりそうだ。4月の気温は温暖な予報となっており、今年のゴールデンウィークも長期休暇へと繋げやすく、ここでの需要も期待できる。さらに学校給食の再開もある。

消費停滞で市中在庫は潤沢だがブラジル産鶏肉の輸入停止が影響すれば相場に追い風となる可能性がある。

以上のことから当市場の上物平均価格は 530 円。中物平均価格 500 円と予測する。

豚 日別相場表 (3月)



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>